

旧石器から縄文へ

— 気候激変期における人々の生活と社会 —



写真左：東京都あきる野市前田耕地遺跡出土槍先形尖頭器・抉入石器・搔器・錐状石器・石斧（重要文化財） 右上：前田耕地遺跡第6遺物集中地点
右中：前田耕地遺跡第17号住居跡 右下：第17号住居跡出土土器（重要文化財） 出典：東京都教育委員会 2002『前田耕地遺跡—縄文時代草創期資料集—』

日時：令和6年1月28日（日）10:00開会 9:30受付開始

会場：荏原文化センター 大ホール（裏面案内図参照）

主催：公益財団法人東京都教育支援機構 東京都埋蔵文化財センター

共催：公益財団法人かながわ考古学財団

公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

参加費無料 事前申込み制（定員400名：応募者多数の場合は抽選）

応募方法：往復はがきに氏名・住所・電話番号を明記し、下記までお申込みください。

〒206-0033 東京都多摩市落合1-14-2

東京都埋蔵文化財センター 三都県公開セミナー係

お問合せ電話番号 042-374-8044

*お預かりした個人情報は、本事業実施のご案内にのみ利用いたします。

申込締切：令和5年12月25日（月）必着

『旧石器から縄文へ』開催にあたって

この公開セミナーは、東京都・神奈川県・埼玉県の埋蔵文化財関係財団による連携事業として、平成20年度から毎年開催しております。セミナーでは、各財団が行った発掘調査や研究の成果を広く皆様にお伝えするとともに、財団の業務や役割にもご理解を深めていただくことを目的に、三都県が持ち回りで行っており、今回は第16回目を迎えました。今回は、旧石器時代から縄文時代への移行期をテーマに開催します。

今から約16,000～11,500年前にかけての旧石器時代から縄文時代への移り変わりは、日本列島全域で段階的に進んだものと考えられてきましたが、近年、年代測定や古環境についての研究が進展し、地域によってさまざまな「縄文化」の特徴が見られることがわかってきました。本セミナーでは、「関東西部」と一括りにされることが多い埼玉県・神奈川県・東京都について、各都県の様相を比較・検討します。さらに、この時期は地球上の気候激変期にもあっており、当時の人々がこれにどう適応していったのかについても考えていきたいと思っております。多くの方々のご参加を、心よりお待ちしております。

[開催内容]

- 10:00～10:10 開会挨拶 安藤 博(公益財団法人東京都教育支援機構理事・東京都埋蔵文化財センター所長)
- 10:10～10:30 趣旨説明 山田和史(東京都埋蔵文化財センター)
- 10:30～11:15 基調報告1「武蔵野台地における旧石器から縄文への移行」
尾田識好(東京都埋蔵文化財センター)
- 11:15～12:00 基調報告2「気候激変期における神奈川の様相」
脇 幸生(公益財団法人かながわ考古学財団)
- 12:00～13:00 昼食休憩
- 13:00～13:45 基調報告3「旧石器時代終末から縄文時代草創期における埼玉県域の様相」
水村雄功(公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団)
- 13:45～14:45 記念講演「縄文時代のはじまりをどう捉えるか」
森先一貴(東京大学准教授)
- 14:45～15:00 休憩
- 15:00～16:00 ミニシンポジウム「旧石器から縄文へ」
- 16:00～16:05 閉会挨拶 秋山淳子(東京都埋蔵文化財センター調査研究部長)
- 16:05 閉会



<会場案内>

荏原文化センター 大ホール

〒142-0053 東京都品川区中延1-9-1 5

[交通]

<電車の場合>

東急池上線荏原中延駅下車 徒歩5分

東急大井町線中延駅下車 徒歩10分

都営地下鉄浅草線中延駅A3出口 徒歩10分

都営地下鉄浅草線戸越駅A1出口 徒歩10分

<バスの場合>

東急バス「反01」「反02」系統

「戸越三丁目」バス停下車 徒歩7分